# 染めの都で育まれた職人の技

## 挑戦し続ける江戸小紋染師　三代目　廣瀬雄望

毛ミの木の長板に白生地を張り、その上に型紙を載せ、ヘラで糊を置く。型紙の文様が寸分の狂いなく整然と型付けされる。染めの最も重要な工程。

江戸小紋最大の特長は、遠目には無地に見えること。近寄って初めて細かな絹文様であることがわかる。

毛万筋（けまんすじ）柄の型紙。良い江戸小紋の絶対条件は何と言っても型紙。型紙彫りは手間暇のかかる職人技だが、毛万筋のように短時間の仕上がりを要する柄もある。廣瀬染工房では彫師の人間国宝・児玉博氏の型紙（写真右）ほか貴重な型紙を多数コレクションしている。

◀型紙の彫刻に使用する道具。錐、小刀等、文様によって使い分ける。

▲色糊は染め上がりの出来映えを左右する大事なもの。同じ色を再現するには熟練が必要。

### 江戸小紋染師　三代目 廣瀬雄望

昭和23年、東京都新宿区、落合生まれ。幼少時代から江戸小紋染に親しむ。昭和45年、父（二代目）の経営する廣瀬染工場に入り、江戸小紋を中心に極型染の修業に励むと同時に尾上松緑、片岡仁左衛門などの歌舞伎役者の着物を染める。昭和50年、江戸小紋無形文化財型染に認定。平成11年、通商産業大臣認定伝統工芸士に認定。三代目廣瀬雄望を継承。江戸小紋一筋に情熱を傾け、極型染の技術の高さは一目おかれている。

**染めの都・新宿で江戸小紋一筋**

東京23区のほぼ中央に位置する新宿。超高層ビル群や繁華街の印象が強い地域なので、ちょっと意外な感じがするかもしれないが、この地の地場産業は染色業。江戸時代から続く、江戸小紋・江戸更紗・東京手描友禅・江戸刺繍などの工房が現存する染めの都なのだ。ここで江戸小紋染一筋に情熱を傾けている伝統工芸士が三代目・廣瀬雄望である。近年、機械染を採用する工場が多い中、廣瀬染工場は手付け（手染）にこだわり続けている数少ない工場である。

伝統的な江戸小紋は、和紙（主に美濃紙）に柄を彫刻した型紙（伊勢型紙）を用いて、白生地に糊を置き、文様を染め出していく。浮世絵版画の彫師と刷師の関係同様、江戸小紋も良い型紙（彫師）と染め（染師）の技術の高さが、美と品質の絶対条件となる。幼少時代から江戸小紋染に親しみ、初代（祖父）、二代目（父）とともに技を研鑽してきた三代目の染めの技術は、歌舞伎役者・尾上松緑、片岡仁左衛門らの着物を染めるなど、多方面で高く評価されている。

**職人のこだわりが詰まったマフラー**

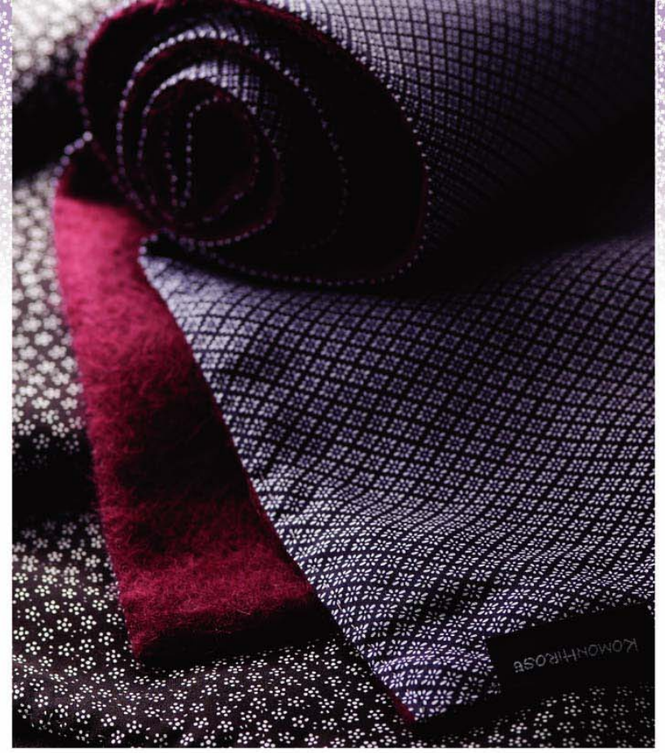
廣瀬染工場では、早くからネクタイやスカーフなど、着物以外の江戸小紋染にも積極的に取り組んできた。江戸小紋を染めさせたら数少ない名人芸を発揮するだけでなく「人のできないことをやりたい」と様々な困難な仕事や新しい染め方への挑戦を続けてきた。今回ご紹介する絹（江戸小紋染）とカシミアのリバーシブルマフラーも三代目の飽くなき探求心と江戸小紋染に対する深い愛情から生まれた。

「絹のよさは羽二重に始まり羽二重に終わる」と言われる羽二重は縦糸を細い2本にして織る、日本を代表する絹織物。柔らかく、軽く、光沢があり、かつ暖かい、絹織物の王様。それに毛織物としては最高峰のカシミアとを組み合わせた最高に暖かいマフラー。羽二重に江戸小紋柄を染め、和装にも洋装にも合うよう仕立てた。絹とカシミアという、素材感の異なった繊維の組み合わせは、一見単純そうに見えるが、縫製は困難を極め何度も試作を繰り返した末、完成した。職人のこだわりが詰まったマフラーだ。

**日本人特有の感性と美意識を愉しんで**

江戸小紋の装いの真髄は、遠目に見れば見無地のように見える清楚さ、さりげなさ。でも、近くで見ると非常に高度な技と、由緒正しく格調高い文様が染め抜かれており、品格がある。しかも、その高度な技を職人も、装う者もひけらかさない江戸の粋。自然の素材を生かし、簡素なほど美しいという、日本人特有の感性と美意識。今まで公の場に出ることのなかった、三代目・廣瀬雄望の手染を、マフラーという形で初めて世に送り出すのは、そんな江戸の、日本の、奥深さを愉しんで欲しいというメッセージ。

冬の寒さを粋に、暖かく、スマートに過ごせる、古くて新しいマフラーの誕生である。



毛織物の王様、カシミアと正絹の羽二重のコンビネーションで暖かさと軽さを実現。

▲KOMON HIROSEのタグ付

▲カシミア100%

▼和装にも洋装にもマッチ、ダンディーで粋な男性の必需品!

### 江戸小紋の歴史

江戸小紋のルーツは武士の裃にあります。江戸時代、各藩の武士たちはこぞってその藩専用の柄（留柄）を裃に使って、権力を誇示し合いました。遠目には無地、近づくと浮かび上がるため息の出るような極細な柄が江戸小紋の真髄です。江戸小紋の柄付けは伊勢型紙（三重県鈴鹿市が産地）を使います。様々な彫刻刀を用いて彫り上げられた微細な柄の型紙を送って柄を付けていきます。極めて高度な技術が要求されます。

⑳ブラック
小紋柄: 黒の梅鉢

㉕エンジ
小紋柄: 紺の菊菱

### 伝統の江戸小紋とカシミアのリバーシブル

商品番号 PTT030-33194

一括価格 **31,500**円（税込）

郵振分割価格**33,300**円（税込）（毎月5,550円×6回）

●カラー番号／⑳ブラック㉕エンジ●サイズ(約)／幅27×長さ150cm●素材／小紋柄羽二重:シルク100%、無地カシミア:カシミア100%●重さ(約)／110g●ドライクリーニング可●日本製　※カラー番号をご指定ください。

長寿の象徴であり、縁起物でもある亀の紋様を浮き彫りにした樺細工の印籠。山桜の樹皮の中でもごくわずかしか採取できない稀少な「ちらし」の部分を用い、樹皮の天然の模様を砂浜に見立てた本作品はまさに芸術そのもの。繊細な細工を施す樺細工は、正倉院の御物や筆、弓、刀の鞘にも用いられている高尚な伝統工芸品なのです。その伝統を守り伝え、国の伝統工芸士にも指定されている貴重な職人・福井正人氏が一切の妥協を許さず作り上げました。自然の風合いが際立ち、素朴ながらも味わい深い表情を見せる風趣な仕上がりの逸品。小物入れとして持てば、一段上の品格が手に入るでしょう。※天然素材のため、作品の表情が一点一点異なります。

# 江戸時代から受け継がれた伝統工芸

## 美しい樺細工の長寿・亀模様印籠

### 樺細工の歴史

現代に守り継がれる樺細工の工法は、今から約200年以上前の天明年間（1781～1788）、秋田県佐竹北家の武士、藤村彦六が県北部の阿仁地方に伝わる細工技術を修得したのが始まりとされています。大変根気のいる細かな作業のため、手の込んだ昔ながらの手法で作る美しい細工物は、年々稀少なものとなっています。

### 伝統工芸士 福井正人

伝統の「たたみもの」の技を継承する貴重な工人。師匠の開拓した装身具の可能性をさらに追求し、独自のデザインを創造。また、父次郎に学んだ「型もの」でも優れた才能を発揮している。

### 伝統工芸士樺細工　亀紋様印籠

商品番号 PTT030-45AE5

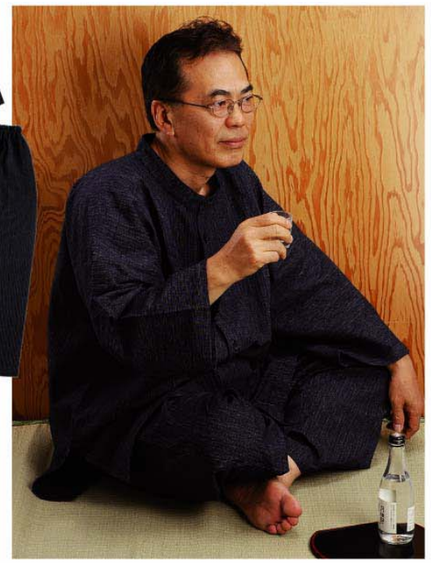
一括価格 **52,500**円（税込）　使用後返品不可

郵振分割価格**54,900**円（税込）（毎月5,490円×10回）

●サイズ／縦8×横5.6×厚さ2.2cm●材質／山桜の樹皮●重さ(約)／50g●仕様／3分割タイプ、小物入れ:2段●日本製　※手作り商品のため、お届けまでに約2カ月かかる場合がございます。

# 幻の亀田縞、伝統を半世紀ぶりに復元!

## 繊細で玄妙な色合いが織りなすくつろぎ着



江戸時代元禄の頃から長い伝統を誇る亀田縞。戦争を期に一度はその姿を消してしまったものの、職人の手により2005年に見事復元されました。一見、縞には見えないほどの細かい文様が特徴で、タテ糸や板じめ糸が一定間隔で配され微妙な色合いを醸し出し、ほどよいコシのある生地には職人が丹精を込めて織り上げた質の高さがうかがえます。倭人着は軽快な印象を与え、作務衣には抵抗感のあった人にもお薦めです。家の中でも気兼ねなくくつろぐことができます。

### 亀田縞の歴史

亀田縞は300年ほどの歴史をもつ伝統の織物。明治から大正にかけて最盛期を迎えるが、戦争を機に衰退。近年、昔の製品を見直す流れから、職人が長年の想いを形にするべくコンピューターまで駆使して忠実な再現に挑み、ついに2005年亀田縞を復元した。

▲細かい縞模様の亀田縞。見る角度によって色合いが微妙に変化します。

### 大江戸元禄時代より復元 幻の亀田縞「倭人着」

商品番号 PTT030-32724

**15,540**円（税込）　使用後返品不可

●サイズ番号／別表参照●素材／綿100%●重さ(約)／650g●仕様／上衣:左胸ポケット、下衣:腰部ポケット左右×各1●手洗い可●日本製　※サイズ番号をご指定ください。※上下同サイズとなります。

(cm)

| サイズ番号 | Ⓜ M | Ⓛ L | Ⓛ LL |
|---|---|---|---|
| 着丈 | 76 | 78.5 | 81 |
| 胸囲 | 88～96 | 96～104 | 104～112 |
| 肩幅 | 60 | 64 | 70 |
| 裄丈 | 71 | 73 | 76 |
| 総丈 | 98 | 101 | 104 |
| 腰回 | 76～84 | 84～94 | 94～104 |
| 股下 | 65 | 67 | 68 |